

期 昭和五十九年六月十一日～六月三〇日
於 図書館三階閲覧室（本館）

とりかへばや物語

とりかへばや物語は、作者未詳の四巻の物語である。名称の由来は、異腹の姉弟が、容貌は酷似しているが、姉は男のようで、弟は女のような性質なので、父君が「とりかへばや」と思いい、取り替えて育てるという所からでていると言われる。

成立は、「無名草子」（建久七年（一一九六））建仁二年（一二〇二）頃成立）に「古とりかへばや」と「今とりかへばや」の比較批評が記載されていることから、「古とりかへばや」と「今とりかへばや」の二種があり、「古とりかへばや」を改作したものが「今とりかへばや」であり、ともに平安朝末期には成立していたと考えられる。現存本は、「風葉集」所収和歌との比較から、「今とりかへばや」であると推定される。

伝本系統は、四冊本系統・三冊本系統（四冊本の巻一、二を上巻一冊にしたものが多い）・山岡俊明本系統などで、ともに同一祖型から発したものであるという。明治以前には刊本はなく、本学所蔵本もすべて写本である。

今回の展示図書は、蔵書印が多いので、それも合わせて見ていただきたい。

(1) とりかへばや

（常磐松文庫）

写本四冊（花・鳥・風・月） 美濃判

天保三年（一八三二）大野広城が、本居宣長・山岡俊明の書入のある校本を書写したものの。

阿波国文庫・不忍文庫・岡田真之蔵書・月明荘の各蔵印あり

(2) とりかへばや

（黒川文庫）

写本三冊 美濃判 十二行書き

文政五年（一八二二）竹内南淵書写 本居宣長校合本

篁園文庫・岡田真之蔵書・紅梅文庫の各蔵印あり

但し、黒川文庫蔵印なし

(3) 登りかへばや

（黒川文庫）

写本七冊 美濃判 表紙朱書「山岡明阿弥陀仏本」

（山岡俊明本）

奥書「天保六年（一八三五）右以村上真澄本書写畢

楽前翁」 黒川文庫蔵印あり

(4) とりかへばや物語

（黒川文庫）

写本三冊 美濃判 十四行書き 表紙朱書「磯足本」

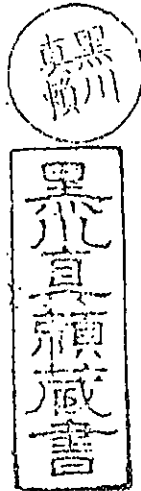
（加藤磯足本）

天保七年（一八三六）梅の屋保又書写 朱書入あり

岡田真之蔵書・月明荘蔵印・黒川家蔵印あり

○ 黒川文庫蔵書印（一部）

○ 黒川真頼蔵印



○ 黒川真道蔵印



○ 徳島藩主蜂須賀家蔵印



○ 不忍文庫（屋代弘賢蔵印）



○ 岡田真之蔵書



○ 篁園文庫（竹内篁園蔵印）



○ 月明荘 ○ 紅梅文庫

（反町茂雄蔵印）

